

I 実践

1 研究主題

思いやりと感謝の気持ちを育てる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は「夢をもち、心豊かで、たくましい豊浦っ子の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では「思いやりと感謝の気持ちを基盤とした人権尊重の精神を育てる」ことを目標としている。

そこで体験学習を中心として、温かく接する場の設定をすることで、児童に思いやりと感謝の気持ちを育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究内容

ア 適切な人間関係づくり

イ 人権教育の視点での学習環境づくり

2 実践内容

(1) 適切な人間関係づくり

ア いじめアンケートの実施

本校ではいじめアンケートを毎学期実施している。担任が児童のアンケートに目を通し、問題があれば面談をし、交友関係の把握をし、いじめの早期発見と早期対応に生かすことができている。

(2) 人権教育の視点での学習活動づくり

ア 人権教室（第3学年）

本校では、人権擁護委員3名をゲストティーチャーとし、第3学年において人権教室を実施した。「いじめはぜったいダメ！」のVTRをもとに、人権擁護委員の方が各クラスにおいて授業を行った。子どもたちは熱心にビデオを視聴し、いじめについての考えをもった様子だった。本校の合言葉である「いじめ0」が子どもたちの胸には、刻まれたことと思う。



「わたしがけんいちさんとおなじようなことになったら、だれでもいいから、大人に言って、ひろしさんみたいにいじめられている人がいたら、先生に言って助けてあげようと思います。たとえ自分がその子にいじめられていたとしても助けてあげたいと思います。」

（「人権教室」3年女子）

イ いのちの教育（第4学年）

助産婦の講話をもとに命の大切さや人の誕生のしくみを学び、親子学習として、自尊感情を高めることをねらいとして行った。子どもたちの感想を見ると、4年生にとって生命の神秘は想像できないところもあると思うが、命の尊さを実感できる良い体験になったと思う。



「わたしは親子学習会で色々なことを学びました。とくに自分が産まれる時、お母さんは、せい

いっぱいがんばったんだなと思いました。田畑先生から学んだことは、女の人の体の中についてです。すごく分かりやすい説明でとてもよく分かりました。わたしも大きくなったら、けいけんするんだなと思いました。命はどんどんつづいてお母さんからわたしへとつながっているのが分かりました。」
（「いのちの教育」について・4年女子）

ウ 福祉体験学習（第5学年）

社会福祉協議会の方をゲストティーチャーとし、それぞれのグループに分かれて体験学習を行った。視覚障害者体験や車椅子体験・高齢者体験を行った。福祉体験を通して、体が不自由な人にとっては、不便な場所が多いことや、車椅子に乗っている人の大変さだけでなく、介護する方の変さも理解したようだった。



「アイマスクをして歩くといつもよりろう下が長く感じました。少ししか歩いていないのに、友達に『今はどこを歩いているの?』とすぐ聞いてしまいました。階段の下りがこわくて少しつまづいてしまいました。わたしはこの体験から目が見えないことの不自由さがよく分かりました。体験では歩くことや階段で上り下りしませんが、日常生活を考えれば、目が見えない人も介助する人も大変だなと思いました。私は、障害がなくて好きなことができて幸せなんだと、あらためて実感しました。」
（アイマスク体験の感想より・5年女子）

エ 「人権メッセージ」「人権書道」への取り組み（5・6年）

「人権メッセージ」には、道徳の時間などを活用して全校で取り組んだ。いじめや命のたいせつさについて自分はどうのように考え、相手に対する思いやりのメッセージを心をこめて書いた。また人権コーナーに児童が書いた人権メッセージを掲示し、「人権書道」に応募することで、人権に関する意識を高めることができた。

3 成果

- （1）いじめアンケートにより、児童の実態を把握して、いじめや生徒指導の未然防止に役立てることができた。
- （2）人権に関わる様々な取り組みを通して、相手を思いやり、助け合う気持ちが育ってきている。
- （3）人権教室や人権メッセージや人権書道への取り組みを通し、家族や友達などに支えられていることを再認識し、感謝や思いやりの気持ちをもつことの大切さに気付くことができた。

II 今後の課題

- 1 今後も人権教育の視点での教育活動を継続する。
- 2 人権に関する理解と認識を高め、指導力向上を図ることをねらいとした職員研修の充実を図る。
- 3 家庭や地域との連携した啓発活動を推進する。

III 人権コーナー設置の様子



〔人権コーナー・いじめ0の標語〕



〔人権メッセージ〕